

医学部・医科大学の医学科における 入試のあり方に関する調査研究

研究開発部試験臨床研究部門 林 篤 裕
研究開発部試験臨床研究部門 石 井 秀 宗
(現職 東京大学大学院教育学研究科)
研究開発部試験臨床研究部門 伊 藤 圭
研究開発部適性試験研究部門 椎 名 久美子
研究開発部試験臨床研究部門 岩 坪 秀 一
(現職 早稲田大学人間科学部)
研究開発部試験臨床研究部門 柳 井 晴 夫

我々は医学部教育の在り方とその入り口である入試、および、メディカルスクール構想について、全国80の国公私立大学の医学部教員を対象とした全国調査を行った。その結果、「医学部の教員全体」と一括りにすることはできず、教員の専門分野によって、求める学生像や入試に対する考え方が異なっていることが判った。また、優れた医師に求められる能力・資質についての解析結果では、必要性の高い24の能力と、専門分野によって必要性に違いの見える12の能力が明らかになった。

医学教育において大きな変化となり得るメディカルスクール構想については広く知られており、今回の調査でも6割の教員が何らかの形でメディカル

スクールの実現を希望しているという結果であった。また、年齢層別では高年輩層が特に導入に積極的であり、学士編入学に否定的な教員でもメディカルスクールには肯定的な反応を示すのも特徴的であった。メディカルスクールに対する入学試験としての全国共通試験の必要性については、メディカルスクールへの移行に積極的な教員ほど必要性を強く感じていることも判った。

メディカルスクールおよび学士入学を含めた医学部に必要な入試科目としては、「国語、数学、英語」を中心にいわゆる「重量型」と言われる多くの科目を課す試験を希望し、学科目試験以外では「面接、小論文」が筆頭に挙げられている。「日本語のコミュニケーション

ョン能力や文章力を測るための試験」に対してはどの入り口用試験としても4割近くの教員が必要性を指摘している。一方、米国のMCATのようなスキルアナリシスタイプの総合学力試験の必要性を認めた教員は3割弱に留まっていた。

今後は、今回把握した医学教育を取り巻く状況とニーズに照らし合わせ

て、「学士入学」に対する入学試験を検討しようと考えており、その一環としてモニター調査も計画している。その際には、従来型の学科目試験のみならず、コミュニケーション能力・読解力・表現力や情報把握力・論理的思考力を測定する総合試験も含めて検討対象とする。

